

令和7年度SDGs未来都市等成果報告会（11.14開催）

地場産品を活用した子育て支援

北海道厚沢部町（2024年度地方創生SDGs課題解決モデル都市選定）



● 地域の特徴（取組を発想した背景）

北海道の南西部に位置する、厚沢部町。3本の川が流れて、天然の鮎やヤマメ、イワナなどが生息できる清流がある水に恵まれた地域である。そんなミネラルが豊富な川に見守られた肥沃な大地が育まれているからこそ、農作物もおいしく育つ。そのように食の豊かな厚沢部町だが、日本の中でも早くから過疎が進んでいる。20年前と比べて、約70%まで人口が減少し、これはさらに年々減り続けていくことが予想されてる。また、子育て世代の流出に伴い、子育て世帯数、出生数も同時に減ってきてる。

若年層の人口流出が課題となる中、感受性が育まれ始める幼少期に、厚沢部町での豊かな農産物を食してもらうことで、長い人生の中で、家族全員にとって厚沢部町を特別な思い入れのある地域へと育んでいく取り組みが必要となる。

厚沢部町では、2022年度に株式会社キッチハイクと連携して「保育園留学」を実施するなど、関係人口の拡大を図っている。



● 取組の内容と成果

中学生以下の子どもがいる世帯を対象に町内産米を贈る子育て支援事業を実施

【対象者数】293件

【申請件数（発送数）】は285件

【申請率】 97.2%

● 発送・申し込み体制の構築

町民向けにお米ギフトカード・事業概要や事業目的のわかる案内チラシを作成。株式会社キッチハイクが提供するeギフトシステムの導入で申込フローをデジタル化、紙ではなくスマホで申込が完結する仕組みを導入。

好きな農家の米を選べるeGIFT



●取組の内容と成果

●「あっさぶこどもみらい新聞」

お米のほかに、あっさぶ米が食卓に届くまでや、米農家、町内飲食関連の方々、厚沢部町長などのインタビューを子どもが読んでも分かりやすい内容とした「あっさぶこどもみらい新聞」を配布。



● 取組の内容と成果

● 「ありがとうカード」

米農家へありがとうを伝える「ありがとうカード」を同封。お米を受け取った家族からは、「とっても美味しいと満足しています。物価高の中、美味しいお米をいただけるのはとても助かります。家族で味わっていただきます。ありがとうございました」、「子供達にも、厚沢部産のふっくりんこだよと話して食べました」などの声を多数いただいた。



● 米農家の反応

「多くの方から美味しいとの声が届くのは、とても嬉しい」、「翌年の予約購入にもつながりました」との声をいただきいました。また、連携した農家においては、地元道の駅においてもお米を販売しており、「本事業実施後に売り上げが伸びている」との声もいただき、地場産品の消費拡大につながった。

● アンケート

75%の方が、「今回の取り組みを通して、厚沢部産のお米の購入を増やしたい」とし、12.5%の方が、「購入を増やし、人にも勧めたい」と答えていた。

● 困難やつまずきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

- 本事業にご協力いただけた地域内のお米農家の確保に苦戦

本事業は農家さんが申し込みに応じて封函、発送する仕組み。これが負担となるとのことで消極的となる農家が多数。

そこで、いくつかの農家さんへ個別に声掛けをしたところ、なんとか 2 社の農家さんを確保することができた。



●推進体制（ヒト・カネ・モノ）の整備方法

【事業費用】

業務委託料 1,980,000円

〈町〉

- ・事業全体統括
 - ・業務の発注
 - ・市民への周知及び対象世帯への案内等配布

〈事業者〉

- ・業務受託によるプロジェクト進行
 - ・チラシ、LP等の作成
 - ・JA及び米農家との連携
 - ・お米発送関連管理
(アドバイザー)
 - ・事業全体への助言等

● 庁内調整・外部調整の工夫

- 本事業の対象となる世帯の把握
- 町内のお米農家の把握

庁内で関係課と連携し、各種情報を整理。

※委託により円滑な事業の実施が可能となった。

● SDGsの視点と政策をどのように結びつけたか

本事業は、子育て世帯への物価高騰対策につながるほか、農業産出額の向上に寄与する。さらに、子育て支援ギフトを通じた地域振興策を展開することが将来の人口減少課題への有効な対策となります。

【関連するゴール】



● SDGsの取組を推進して良かったこと・周囲の反応など

〈事業に参加した農家〉

- ・「多くの方から美味しいとの声が届くのは、とてもうれしい。道の駅で販売などをしていますが、直接感想を聞ける機会が少ないので貴重な機会となりました。今後続くことを願います。」
 - ・「知らなかった人から美味しかったと声をかけてもらうなど、道の駅などで直接感謝の言葉を受け認知が広まりました。さらに翌年の予約購入にもつながりました。」

〈住民の声〉

- ・とても美味しいと満足しています。物価高の中、美味しいお米をいただけるのはとても助かります。
 - ・保育所以外で米農家さん、地域おこし協力隊などの事を色々知ることができました。
 - ・子供たちと厚沢部産ふつくりんごだよと説明しながら食べました。
 - ・食べ盛りの子どもが4人いるので大変助かりました。 など



● 今後の展望・他地域への展開

子育て世帯以外（高齢者、単身者など）への応用やお米以外の地域産品への展開（野菜セット、加工品など）なども視野に入れながら、経済支援策を契機に地域活性化につなげていきたい。

また、農家自体の高齢化に伴い、取り組みに対する理解はあるものの、個々による発送の負担等から連携に至らなかつたケースもあり、今後は、これら負担軽減を図りながら事業実施を検討していきたい。

● その他



● メークイン発祥の地厚沢部町

大正14年に町内にあった試作場で「メークイン」が初めて試験栽培されました。今年で100年。今年は様々な記念行事が行われた。例年開催されるあっさぶふるさと夏まつりでは、あっさぶメークインを使ったジャンボコロッケを揚げる様子を一目見ようと多くの方が訪れる。コロッケが鍋に投入される瞬間は圧巻で、2022年には総重量279Kgものジャンボコロッケの作成に成功しギネス認定された。厚沢部町では古くからお米のほかにメークインを中心に畑作が行われてきた。これからも特産の「あっさぶメークイン」を守り続けていく。

